令和４年度小平市立小平第八小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均を９．４ポイント上回り、どの領域・問題でも全国平均を上回った。特に「読むこと」では、選択式、記述式共に正答率が高かった。「書くこと」の、文章のよさを見付け、記述する問題については、正答の児童が少なかった。

課題

全国平均は上回ったものの、「書くこと」に対する苦手さが見られる。長い文章を読んで理解することを苦手とする児童もいるため、個別の支援を充実させていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

朝の時間では、週１回設定されているモジュール（１５分間の学習）を利用して、漢字や言葉の指導を引き続き行う。語彙や表現力を高めるため、読書活動も大切にしていく。国語の授業での、文章を書く学習は、書き表し方の基本を丁寧に指導し、書く力を高めるとともに、表現を工夫する力も同時に育んでいく。また、共有の時間を大切にし、自他のよさや課題に気付けるようにしていく。

【算数】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均を１０．８ポイント上回り、どの領域でも全国平均を上回った。特に「図形」のプログラミングを用いた問題の正答率が全国平均と比べて高かった。立式のわけを記述で解答する問題では、全国平均をやや下回った。

課題

正解を求めることはできているが、そこに至るわけを記述したり説明したりする力を育む必要がある。また、「割合」や「比」の理解が不十分な実態が見られる。特に、生活の中での活用場面とつなげて考えることが苦手な傾向がある。

学校で取り組む具体的な改善策

週１回設定されているモジュール（１５分間の学習）等を利用して、計算方法や基本的な知識をしっかりと定着させていく。算数の授業では、問題解決型学習を実践し、「自ら解決方法を考える」「自分の考えをわかりやすく伝える」「友達の考えから自分の考えを深める」ことを大切にしていく。解決への道筋を考えるときには、「図や絵、表などをかいて問題場面を把握する」「数直線図をかいて立式の根拠とする」など、繰り返し指導する。単位量当たりの考え方、比例の考え方を大切にし、既習事項とのつながりを意識して学習できるようにする。

【理科】　　状況の分析

全体の正答率は、全国平均を９．７ポイント上回り、どの領域でも全国平均を上回った。特に「生命」や「地球」を柱とする領域の正答率が全国平均と比べて高かった。実験器具の名称を答える問題は、全国平均をやや下回った。

課題

実験の際は、器具の名称や取り扱い方を繰り返し指導していく。また、実験結果を根拠に自分の考えを作ったり、実験結果から新たな課題を見付けたりすることが定着していないことが結果から読み取れた。

学校で取り組む具体的な改善策

授業では、問題解決型学習を中心に行い、その中で知識・技能が確実に習得できるようにする。「予想→観察・実験→考察→結果」という一連の流れの中で、自分の考えをしっかりともたせる時間をとる。また、既習事項とのつながりや、次時へのつながりを意識し、生活と関連付けた学習になるようにする。意図的に話合いの場を設定し、自分の考えと他者の考えの違いを捉え、多様な視点から自分の考えを見直すことにより、多角的に考察し、より妥当な考えをつくり出していけるような指導を工夫する。

【質問紙】　　状況の分析

「いじめはどんな理由があってもいけない」「友達と協力するのは楽しい」と答えた児童の割合が高く、友達を大切にする心が育っていることがうかがえる。また、「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」と将来を肯定的に捉える児童も多い。家に本がたくさんあり、日頃から読書に親しむ児童が多いことが、教科の高い理解力につながっていると考えられる。

課題

「失敗を恐れず挑戦する」ことに抵抗がある児童が多く見られ、学校生活の中でもその傾向が感じられる。また、少数ではあるが、「学校が楽しい」という問いに否定的な回答をしており、学習面、生活面で支援していく必要がある。

教科の学習では、国語や算数に比べて、理科への興味・関心が低い傾向にある。科学的事象の楽しさを味わえるような指導がより必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

全教職員で共通した生活指導を行うことで、生活習慣や規範意識を更に身に付けさせていく。また、家庭にも学校での指導について説明し（保護者会・お便り等）協力を呼び掛けていく。

課題となっている「失敗を恐れず挑戦する」ことについては、一人一人が活躍する様々な機会を設定し（全校朝会でのスピーチ・委員会活動での発表・ブロック班活動・各教科学習での発表等）全員に役割を経験させることで自信を付けさせていく。また、児童発案の取組を実施し、価値付けていく。

教科の学習では、ペアやグループ等学習形態を工夫したりＩＣＴ機器を積極的に利用したりし、児童の学習意欲が高まるような指導を工夫していく。